



【開催報告】

2022年3月15日から17日に開催された21st Science Council of Asia Conference New Delhi, India (Online)の平行セッションScience, technology and society for SDGsで安田委員がモデレーターを務めました。50程度のアブストラクトから若手を中心とする5名を選び、科学的な知見をどのように社会に実装してSDGsを達成するかについて議論しました。

また、令和4年（2022年）6月30日から令和5年（2023年）6月30日までの1年間は、国連総会で決議された「持続可能な発展のための国際基礎科学年（IYBSSD）」(The International Year of Basic Sciences for Sustainable Development)とされています。これに沿って、日本学術会議はその日本側のサポート機関として連絡委員会を立ち上げ、枠組みを推進しており、若手アカデミー・国際分科会からは入江委員が参加しています。7月29日には関連学術フォーラムが開催され、国際分科会からは寺田委員が参加しました。

(報告者：入江直樹・国際分科会委員長／東京大学)



日時 令和4年7月29日(金) 12時30分～17時55分

お申し込みはコチラから

開催場所 日本学術会議講堂(申込先着順)
オンライン配信あり



後援: 内閣府、文部科学省、日本経済団体連合会、国立研究開発法人 科学技術振興機構 <https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0110.html>

プログラム

12:30～13:00

挨拶

- ・梶田 隆章
(日本学術会議会長・東京大学宇宙線研究所教授) 趣旨説明
- ・小林 鷹之
(内閣府特命担当大臣(科学技術政策))
- ・篠原 弘道
(日本経済団体連合会副会長・NTT相談役)
- ・池田 貴城
(文部科学省研究振興局長)
- ・塩崎 正晴
(国立研究開発法人科学技術振興機構理事)
- ・小谷 元子
(日本学術会議連携会員・ISC次期会長)

13:00～14:40

セッション1「基礎科学と私たちの暮らし」

- ・田中 啓二
(日本学術会議連携会員・公益財団法人東京都医学総合研究所理事長)
「基礎研究余話:「役に立たない研究」と「役に立つ研究」」「人工知能が拓くインクルーシブ社会」
- ・藤田 誠
(東京大学大学院工学系研究科卓越教授)
「持続的社会と科学リテラシー」
- ・長我部 信行
(日立製作所コネクティブインダストリーズ事業統括本部)
「基礎科学とイノベーション」
- ・長井 志江
(東京大学ニューロインテリジェンス国際研究機構特任教授)
「人工知能が拓くインクルーシブ社会」
- ・一ノ瀬 正樹
(日本学術会議連携会員・東京大学名誉教授・武蔵野大学教授)
「科学技術をめぐる事実と規範-推進と抑制のゆらぎ-」

14:50～15:30

総合討論I「発展する社会と基礎科学」

- モデレーター: 滝 順一
(日本経済新聞編集局総合解説センター編集委員)
- コメンテーター: 渋谷 健
(シブサワ・アンド・カンパニー代表取締役)
「基礎科学と新しい資本主義」
- パネリスト: 第一セッション講演者
青木 玲子
(日本学術会議連携会員・公正取引委員会委員)

15:45～17:00

セッション2「科学と市民の共創」

- ・駒井 章治
(東京国際工科専門職大学工科学部教授)
「自省と対話--相互理解のために--」
- ・原 有穂
(Friday for future Japan)
「COP26で気付いた気候危機の根本的な問題点」
- ・北島 薫
(日本学術会議第二部会員・京都大学農学研究科教授)
「生物多様性と人:里山、奥山、そして地球」
- ・小林 佳世子
(南山大学経済学部准教授)
「共感からみたヒトという生き物の謎と社会の仕組み」

17:10～17:55

総合討論II「科学を私たちの力に」

- モデレーター: 高橋 真理子
(ジャーナリスト・元朝日新聞科学コーディネーター)
- パネリスト: 第二セッション講演者、小谷 元子、梶田 隆章
- 閉会挨拶: 野尻 美保子
(日本学術会議第三部会員・「持続的発展のための国際基礎科学年」連絡会議世話人)